

[平成 16 年度表彰委員]

腰塚武志 (委員長・筑波大学), 大山達雄 (副委員長・政策研究大学院大学), 尾崎俊治 (南山大学), 加藤直樹 (京都大学), 杉野 隆 (国士舘大学), 鈴木久

敏 (筑波大学), 高橋 誠 (電力中央研究所), 高橋幸雄 (東京工業大学), 田口 東 (中央大学), 平林隆一 (目白大学), 山上 伸 (東京ガス)

学会ニュース

平成 17 年度通常総会議案について

平成 17 年度通常総会は去る 4 月 25 日に開催され, 以下の総会議案がすべて原案通り承認されましたのでお知らせします。

平成 16 年度事業報告 (第 1 号議案)

I. 事業の概要

1. 研究発表会 (定款第 5 条 1 号)

(1) 3 月 17 日, 18 日の両日, 早稲田大学理工学部において, 第 95 回研究発表会を開催した。

- ・特別テーマ「ニッポン再生:OR からの処方箋」
・特別講演 (一般公開)

1)ニッポン再生における大学の役割
白井克彦 (早稲田大学 総長)

2)経営革新のさまざまな視点
村山 徹 (アクセンチュア(株)代表取締役社長)

3)マニフェストと内発的改革
北川正恭 (21 世紀臨調代表, 早稲田大学教授)

- ・発表件数 173 件
一般発表 173 件 (うち部会報告 2 件)
・参加者数 485 名

(2) 9 月 8 日, 9 日の両日, 東北大学川内北キャンパスにおいて, 第 96 回研究発表会を開催した。

- ・特別テーマ「ものづくりと OR」
・特別講演 (一般公開)

1)高効率な世界一モノ作りに向けた継続的革新活動
白幡洋一 (東北リコー(株)代表取締役社長)

2)ものづくりに基づく新産業創出
ーニッチェの取り組みー

井口泰孝 (東北大学 未来科学技術共同研究センター長)

- ・発表件数 159 件
一般発表 158 件 (うち部会報告 1 件)
招待講演 1 件
・参加者数 352 名

また, 10 日には宮城県古川農業試験場を見学した。

2. シンポジウム (定款第 5 条 1 号)

(1) 3 月 16 日, 早稲田大学西早稲田キャンパスにおい

て, 第 51 回シンポジウム「ゲーム理論と離散数学の出会い」を開催した。講演 5 件, 参加者は 90 名であった。

(2) 9 月 7 日, 東北大学川内北キャンパスにおいて, 第 52 回シンポジウム「福祉とその周辺」を開催した。講演 4 件, 参加者は 30 名であった。

(3) 10 月 19 日, 20 日, 金沢市文化ホールにて, 第 16 回 RAMP シンポジウムを開催した。セッションは「離散最適化とその周辺」, 「鉄道の数理計画」, 「プライバシーの統計数理」, 「連続最適化における新潮流」, 参加者は 120 名であった。

3. 普及活動 (定款第 5 条 1 号)

(1) 定例講演会

Table with 5 columns: 開催年月, テーマ, 講師, 参加人数, 開催地区. Rows include presentations on financial engineering, IT innovation, and global production scheduling.

(2) OR セミナー

・第 1 回「ルーエンバーガーの『金融工学入門』で学ぶ金融工学の基礎」を 6 月 10 日, (株)構造計画研究所で開催した。参加者 64 名。

題 目	講 師
金融工学の基礎	枇々木規雄 (慶應義塾大学)
第1部 確定的なキャッシュ・フロー系列	枇々木規雄 (慶應義塾大学)
第2部 一期間確率的キャッシュ・フロー	今野 浩 (中央大学)
第3部 派生証券	鈴木 賢一 (東北大学)

・第2回「ユビキタス・サービス」を11月9日、(株)構造計画研究所で開催した。参加者17名。

題 目	講 師
ユビキタス・サービスが変革するITの世界	山本修一郎 (株)NTT データ
ユビキタス環境におけるサービスの合成とそのアクセス制御	岩尾 忠重 (株)富士通研究所
ユビキタスサービスの展望	塚本 昌彦 (大阪大学)
RFIDアプリケーションの高度化と投資対効果	堀田 徹哉 (アクセンチュア(株))
わが国におけるRFIDの流通分野への適用—実証実験から—	荒木 勉 (上智大学)

(3) OR 企業フォーラム

開 催	テーマとゲストスピーカー	参加者
第1回 (17.1.21) 於：大阪	標準化の国際的動向と新しい分野でのマネジメントシステム ○(財)日本規格協会 関西支部事務局長 中泉 純	28名
第2回 (17.2.24) 学士会館	スピード感度に富んだ商品共同体の構築 ○東芝テック(株) 執行役員生産本部長 落合信夫	26名

(4) 企業事例交流会

- ・第13回企業事例交流会は、第95回研究発表会（早稲田大学）にて3月17日開催。発表件数4件。
- ・第14回企業事例交流会は、第96回研究発表会（東北大学）にて9月8日開催。発表件数4件。

(5) 新宿 OR 研究会

昭和55年創設以来、年間10回の例会を開催している。テーマはOR関係の最近の動向に留まらず会員推薦の各界の話題など極めて広範、かつ時宜に適ったもので、メンバーの啓発、懇親を行っている。会誌に開催案内を掲載し、新宿地区を中心に会員の幅広い参加

を呼びかけている。

4. 刊行物（定款第5条2号）

- (1) 機関誌「オペレーションズ・リサーチ」をVol. 49, No. 3～Vol. 50, No. 2まで各3,500部発行した。
- (2) 論文誌（Journal of the Operations Research Society of Japan）をVol. 47, No. 1～No. 4を各2,900部、和文論文誌（Transactions of the Operations Research Society of Japan）Vol. 47を2,800部発行した。
- (3) 研究発表会アブストラクト集およびシンポジウム予稿集

春季・秋季研究発表会のアブストラクト集およびシンポジウム予稿集を発行した。

(4) セミナーテキスト

「ユビキタス・サービス」に関するテキストを発行した。

5. 日本学術会議並びに他学協会との連携・協力（定款第5条3号）

(1) 日本学術会議関連

日本学術会議の一部を改正する法律が公布され（16年4月）、学術会議会員の推薦制度の変更、第19期の活動期間が平成17年9月30日までとなったほか、研究連絡委員会の廃止（連携会員の創出）、登録学術研究団体を広報協力学術研究団体とするなど、大幅な変更が行われることとなった。これを受けて、平成16年10月には会員候補者選考委員会から各学術団体へ会員候補者の情報提供の依頼があり、本会では12月までに11名の情報提供を行った（産業人・実務家3名、若手研究者3名、女性研究者3名、地方在住者6名）。

(2) 経営工学関連学会協議会（FMES）関連

上記学術会議の研究連絡委員会、専門委員会の役割を果たすとともに以下のシンポジウム、JABEの仕事を担当するために関連9学会が再立ち上げし、平成12年12月から活動している。

① シンポジウム委員会

学術会議研連および専門委員会とFMES構成9学会が共催して行なうシンポジウムの実行委員会であり、今年度は本学会が幹事学会であった。このため実行委員長には今野会長が、実行委員には本会から研究普及担当の矢部理事（東京理科大学）、相澤前理事（(株)構造計画研究所）が就任し、準備に当たり、当日の司会は研究普及担当の中野副会長が担当した。今回の第20回シンポジウムは「経営戦略とリスクマネジメント」と題し、7月9日日本学術会議講堂にて開催された。当日は一般74名、学生20

名の参加を得て、特別講演は刈屋武昭氏（明治大学）、田宮英和氏（三井物産㈱）、中山渉氏（東京ガス㈱）、山田方敏氏（旭硝子㈱）の4氏が行った。

② FMES/JABEE 委員会

JABEE 大学教育プログラム認定作業に参加するため FMES が設置した委員会であり、当学会からは委員に矢部博氏（東京理科大学）、水野眞治氏（東京工業大学）が参加している。

今年度は本格審査2年目となり、その審査に審査員として2名、オブザーバーとして3名参加するとともに、経営工学分野としての審査結果の調整、判定を担当する審査委員会には2名が参加している。経営工学関連協議会では、参加学会から年会費（運営費）10万円の会費を集め、前記①②の委員会活動を実施し、当面の幹事学会は当学会が担当している。現在の加盟学会は、(株)日本経営工学会、(株)日本品質管理学会、日本開発工学会、日本信頼性学会、研究・技術計画学会、日本設備管理学会、経営情報学会、プロジェクトマネジメント学会、および当学会の9学会である。

(3) 日本技術者教育認定機構 (JABEE)

当学会は2001年2月に正会員として加入（会費1口10万円）するとともに上記 FMES グループとして加入、その幹事会費分（日本経営工学会、日本品質管理学会と当学会の3学会が各10万円）を負担している。

既述の通り、大学教育プログラムの認定作業を実施している。経営工学分野では本年度、1大学で実施された。

(4) (株)日本工学会関連

工学系94学協会の連合体である(株)日本工学会の諸活動に協力し、また同会事務研究委員会に委員1名（事務局長）が参加している。

(5) 横断型基幹科学研究団体連合（略称：横幹連合）

この連合は「社会発展の基礎となる新しい価値体系である横断型基幹科学技術の重要性を提唱し、その創造と進歩に資する活動を行うこと」を目的に計測自動制御学会、FMES メンバーなど30学会が参加して、平成15年4月に設立総会を開催し、正式発足した。当学会からは代議員として水野眞治氏（東京工業大学）、理事として今野浩氏（中央大学）、鈴木久敏氏（筑波大学）、出版委員として杉野隆氏（国土舘大学）が派遣されている。

6. 他学協会との交流（定款第5条3号）

他学協会の下記講演会等に協賛、後援した。

- ・2004年度春季全国研究発表大会（経営情報学会）
 - ・2004年度秋季全国研究発表大会（経営情報学会）
 - ・第54回システム制御情報講習会（システム制御情報学会）
 - ・平成16年度MPSシンポジウム（情報処理学会）
 - ・スケジューリング・シンポジウム2004（スケジューリング学会）
 - ・土木計画学ワンデーセミナー（土木学会）
 - ・第34回信頼性・保全性シンポジウム（日本科学技術連盟）
 - ・設計工学シンポジウム（日本学術会議）
 - ・創成加工工学シンポジウム（日本学術会議第5部）
 - ・第6回日本感性工学会年次大会（日本感性工学会）
 - ・No.04-205 国際シンポジウム（日本機械学会）
 - ・No.04-22 生産システム部門講演会2004（日本機械学会）
 - ・第47回自動制御連合講演会（日本機械学会）
 - ・第23回日本シミュレーション学会大会（日本シミュレーション学会）
 - ・第17回秋季信頼性シンポジウム（日本信頼性学会）
 - ・日本信頼性学会フォーラム（日本信頼性学会）
- (他略)

7. 国際協力（定款第5条3号）

- (1) IFORS (International Federation of Operational Research Societies) を通じて各国のOR学会との交流、協力を図った。
- (2) APORS (Association of Asian-Pacific Operational Research Societies) の事務局長として大山達雄氏（政策研究大学院大学）を選出し、アジア・太平洋地域のORの発展と加盟学会の情報交換に協力した。
- (3) IAOR (International Abstracts in Operations Research) の編集、発行に協力し、日本の文献抄録を送付するとともに、IAORの国内頒布に協力した。
- (4) APJOR (Asia-Pacific Journal of Operational Research) の編集、発行、頒布に積極的に協力した。
- (5) EJOR (European Journal of Operational Research) の編集、頒布に協力した。

8. 受託研究活動（定款第5条4号）

学会の公益活動の一環として、本年度も前年度に引き続き、(財)グローバル・インフラストラクチャー研究財団からの受託研究を「世界のインフラストラクチャー」研究部会を窓口を実施した。

9. 研究部会・研究グループ（定款第5条4号）

研究部会・研究グループ終了/中間報告

◎印 終了を示す
 *印 研究グループを示す
 ☆印 常設部会を示す

部 会 名	主査幹事	メンバー	開催	内 容
☆待ち行列	山下英明 (東京都立大学) 藤本 衡 (東京電機大学)	30名	7回	待ち行列のトレンドである通信ネットワークに関する講演が多く行われた。また、オーソドックスな待ち行列解析の報告に加え、確率モデルを用いた様々な解析に関する講演があり、待ち行列の枠を超えた情報や意見の交換が実現した。
☆OR/MSとシステム・マネジメント	六十里 繁 (千葉商科大学) 田中 宏和 (神奈川工科大学)	20名	6回	本年度は特に、松田武彦氏の提唱した「組織知能パラダイム」の継承・発展を企画し、6名の講師を迎えて研究部会を実施した。講演を通して組織知能概念の展開と企業経営に生かすための方策等の意見交換を行った。
☆数理計画(RAMP)	福島 雅夫 (京都大学) 山下 信夫 (京都大学)	30名	1回	第16回シンポジウムを10月19・20日に金沢市文化ホールで開催した。非線形最適化、鉄道の数理計画、組合せ最適化、プライバシーの統計数理に関する4セッションを設け、数理計画の理論、計算手法、応用等に関する情報交換を行った。
☆統合オペレーション	梅沢 豊 (大東文化大学) 中野 一夫 (構造計画研究所)	30名	7回	7回の研究会を東京と名古屋で開催した。そのうち1回は「SCMの最新動向」と題するセミナーであった。また、学会誌の49巻9月号と11月号に特集を組み、研究成果を公表した。
☆評価のOR	刀根 薫 (政策研究大学院大学) 篠原 正明 (日本大学)	29名	4回	DEAは、好ましくない項目への対処法、事業法人合併に伴う効率性分析等、AHPは複数評価者一対比較データの分析等、更にDEAとAHPの共通点と相違点の考察、データマイニング手法の情報セキュリティへの適用事例、双対尺度法に関する発表が行われた。
◎数理情報工学的意思決定とその応用	吉富 康成 (京都府立大学) 小出 武 (流通科学大学)	13名	5回	多目的組合せ最適化、独占市場における最適政策、サポートベクターマシン、ファジィクラスタリング、インターネットにおける最適化、ラフ集合、ビジネス情報システムなどの報告があり、活発な質疑応答が行われた。
◎不確実性下のモデル分析とその応用	古川 哲也 (九州大学) 時永 祥三 (九州大学)	29名	5回	不確実性下のモデル分析とその応用に関して、主として九州支部会員の研究者により研究発表を実施し、討論を行った。その成果は、OR学会論文誌、学内紀要等に掲載されている。
◎マーケティング・データ解析	田口 東 (中央大学) 生田目 崇 (専修大学)	30名	9回	データ解析コンペティションを活動の中心におき、参加チームが共通のデータ解析を行った。20チームを超える参加チームの研究発表を元に、分析を通じて使われる理論・モデルや分析結果から得られた知見について議論した。
アルゴリズム	岩田 覚 (東京大学) 武田 朗子 (東京工業大学)	30名	6回	5回の定例研究会を開き、毎回2名の講演者を招き、問題解決の数理的手法としてのアルゴリズムに関する研究発表を行った。常時30名前後が出席し、活発な質疑応答・情報交換が行われた。他に合宿形式の研究会を開き、2件の招待講演と24件の一般発表を行った。
意思決定とOR	前田 隆 (金沢大学) 桑野 裕昭 (金沢学院大学)	12名	5回	主に北陸地区におけるOR各分野の専門家が参集し、担当者・開催場所を変えて開催した。発表は大学所属研究者・院生によるものが多くを占め、内容は理論や手法、事例研究であった。
ゲームと実験	武藤 滋夫 (東京工業大学) 猪原 健弘 (東京工業大学)	50名	9回	本年度は国内外からの報告が計10件あり、今後のゲーム理論及び実験経済学の発展の方向及び応用分野の可能性について、有意義な意見交換を行うことができた。
◎食糧・環境問題とOR	石井 博昭 (大阪大学) 伊藤 健 (流通科学大学)	21名	7回	7回の研究集会を開催し、食糧・環境問題の各方面で活躍される方にOR的手法の適用事例を紹介頂き、今後の展開について意見交換を行い、参加者が当該分野の現状について認識し、新たな研究の方向性を議論した。
AHPの世界	木下 栄蔵 (名城大学) 大屋 隆生 (電力中央研究所)	23名	5回	パラダイムとしてのAHP、AHPからANPへ、新しいAHP、支配型AHPと一斉法、集団AHPのテーマを中心に開催し、活発に議論した。発表者は、大学と実務者がバランスするようにした。
21世紀モノ造りマネジメント	今泉 淳 (東洋大学) 成松 克己 (東芝)	30名	8回	スケジューリング・生産計画をベースに、製造業におけるマネジメントというより広い視野での今後の方向性を探るべく、現在の企業、大学における特徴的な試みについて講演を招聘し、討論を行った。
世界のインフラストラクチャー	栗田 治 (慶應義塾大学) 三浦 英俊 (明海大学)	19名	12回	世界のインフラストラクチャーのあり方や問題点にORの視点から多面的に接近し、①数量的評価、②効果の視覚化、③インフラ整備におけるリスク管理、④数理地政学的研究の基礎モデル、といった面で研究を推進した。
不確実性理論の経営科学への応用	蔵野 正美 (千葉大学) 岩村 覚三 (城西大学)	9名	5回	確率とファジィ理論に基づくソフトな数理モデルの構成法、解法、計算アルゴリズムを中心に研究活動を行った。毎回2名の講演者による最新の研究成果をもとに理論と応用について討論、情報交換が行われた。12月には合宿シンポジウムを開催した。

10. 表彰（定款第5条5号）

- (1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞
第33回文献賞の選考を行い、以下のとおり決定した。
・ On the subexponential properties in stationary single-server queues :
A Palm-martingale approach
Advances in Applied Probability Vol. 36, No. 3
三好直人（東京工業大学）
・ An Ejection Chain Approach for the Generalized Assignment Problem
INFORMS Journal on Computing Vol. 16, No. 2
柳浦睦憲（京都大学）
- (2) 日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞
第30回普及賞の選考を行い、以下のとおり決定した。
柳井 浩（慶應義塾大学名誉教授）
- (3) 日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞
第29回実施賞の選考を行い、下記のとおり決定した。
該当なし
- (4) 日本オペレーションズ・リサーチ学会事例研究賞
第25回事例研究賞の選考を行い、以下のとおり決定した。
・ 野球チームのラインナップ選定のための数理的一手法—日本代表チームの選定を例として—
オペレーションズ・リサーチ Vol. 49, No. 6
廣津信義, 宮地 力（国立スポーツ科学センター）
・ 表計算ソフトウェア「MUSASHI」
羽室行信（大阪産業大学）、加藤直樹（京都大学）

- (5) 日本オペレーションズ・リサーチ学会業績賞
第6回業績賞の選考を行い、以下のとおり決定した。
山下 浩（樺数理システム）
- (6) 日本オペレーションズ・リサーチ学会学生論文賞
第22回学生論文賞の選考を行い、以下のとおり決定し、授賞を行った。
・ Optimal Design of PAC-Companion Structure for Mortgage Backed Securities Using Cash Reserve
沓名拓郎（京都大学・修士論文）
・ An Iterated Local Search Algorithm for Vehicle Routing and Scheduling Problems with Convex Time Penalty Functions
祖父江謙介（京都大学・修士論文）
・ Accuracies of Decomposition-type Approximate Models for Large-Scale Mobile Communication Networks
高橋成晃（東京工業大学・修士論文）
・ 離散最適化手法による変量のクラスタリング
針谷尚幸（東京大学・修士論文）
・ 有限距離空間の離散凸性
平井広志（東京大学・修士論文）
・ 放射環状型交通ネットワークの適正配置とその整備効果に関する数理的研究
藤田学洋（筑波大学・修士論文）
・ 最大隣接順序を用いた最大流アルゴリズムの改良と実装
松岡祐治（東京大学・卒業論文）

11. 支部活動（定款第5条6項）

支部ごとに次のとおり活動した。

支部活動報告

	北海道	東 北	中 部	関 西	中国四国	九 州
運営会議	支部総会 1回 運営委員会 2回	支部総会 1回 運営委員会 1回	支部総会 1回 運営委員会 1回 幹事会 5回	支部総会 1回 運営委員会 2回	支部総会 1回 運営委員会 2回	支部総会 1回 運営委員会・ 幹事会 1回
研究会			研究会 3回 研究発表会 1回 北陸地区合同 研究会 1回	研究会 30回	研究部会 9回	研究会 3回
講演会	講演会 2回	講演会 1回	定例講演会 1回 講演会 1回	講演会 1回	講演会 4回	講演会 4回
講習会						

	北海道	東 北	中 部	関 西	中国四国	九 州
出版			支部ニュース8回 アブストラクト集 1回	支部ニュースレタ ー 2回		
その他		研究発表会実行委 員会 3回 第52回シンポジ ウム 平成16年秋季研 究発表会	三学会共催講演会 1回 見学会 1回 支部ニュース 10回 研究発表会アブス トラクト	第1回OR企業フ ォーラム開催	シンポジウム2回 国際会議の協賛 1回	

II. 処務の概要

1. 役員に関する事項

理事 非常勤
定数：12人から16人（現在：16人）

任期：2年

監事 非常勤
定数：2人（現在：2人）

任期：2年

2. 職員に関する事項（略）

3. 会議に関する事項

(1) 臨時総会

開催年月日	議 事 事 項	結果
16.3.17	1. 定款細則改訂の件 2. 平成16年度事業計画の件 3. 平成16年度予算の件	承認 " "

(2) 通常総会

開催年月日	議 事 事 項	結果
16.4.26	1. 平成15年度事業報告の件 2. 平成15年度収支計算報告および 監査報告の件 3. 平成16年度17年度役員選任の件 4. 平成16年度17年度代議員選任の 件	承認 " " "

(3) 理事会（略）

(4) 支部長会議（略）

(5) 委員会・幹事会（略）

4. 許可・認可・承認・証明に関する事項

2月28日付けで消費税簡易課税制度選択届を行った。

5. 契約に関する事項

該当なし

6. 寄付金に関する事項

該当なし

7. 主務官庁からの連絡事項等（略）

8. 会員状況

(1) 入退会内訳

	名誉 会員	正会員	学生 会員	賛助会員		合 計
				A 種	B 種	
平成16年2月末日	12	2,262	265	70 (87)	21 (21)	2,630
平成16年度 移動	入会	58	83	3 (3)	3 (3)	147 (6)
	学→正	43	△43			
	正→学	△2	2			
	正→名					
	退 会	129	20	9 (12)	2 (2)	160 (14)
除 名	27	20			47	
復 活						
純増減		△57	2	△6 (△9)	1 (1)	△60 (△8)
平成17年2月末日	12	2,205	267	64 (78)	22 (22)	2,570

()は口数

(2) 地域別内訳

	名誉会員	正会員	学生会員	賛 助 会 員	
				A 種	B 種
本 部	9	1,271	198	47 (60)	19 (19)
北 海 道		81	7	2 (2)	
東 北		82		1 (2)	
中 部	1	199	18	2 (2)	
関 西	2	321	31	9 (9)	2 (2)
中国・四国		125	7	2 (2)	
九 州		126	6	1 (1)	1 (1)
合 計	12	2,205	267	64 (78)	22 (22)

()は口数

平成 16 年度収支計算書 (第 2 号議案)

収支計算総括表

平成 16 年 3 月 1 日から平成 17 年 2 月 28 日

(単位：円)

1 収入の部	
科 目	一 般 会 計
基本財産運用収入	1,504
入会金収入	135,300
会費収入	42,676,250
事業収入	16,087,913
その他収入	8,442,649
当期収入合計	67,323,616
前期繰越収支差額	20,138,820
収入合計	87,462,436
2 支出の部	
科 目	一 般 会 計
事業費	32,170,946
管理費	31,109,156
その他支出	16,847,090
当期支出合計	80,127,192
次期繰越収支差額	7,335,244
(当期収支差額)	(2,196,424)
支出合計	87,462,436

● 訂正とお詫び

本誌 7 月号 平成 17 年春季研究発表会ルポの執筆者に誤りがございました。

下記のように訂正し、お詫びいたします。

山下 真 (神奈川大学), 中田和秀 (東京工業大学), 後藤順哉 (筑波大学), 井床利生 (日本アイ・ビー・エム(株))

平成 17・18 年度役員候補者名簿 (第 3 号議案)

会務役職	定数	候 補 者	備考 (非改選役員)
会 長	1 (0)		今 野 浩
副 会 長	3 (2)	片 山 隆 仁	鈴 木 道 夫
"		高 橋 幸 雄	
庶 務	2 (1)	武 藤 滋 夫	齋 藤 司 郎
国 際	1 (1)	牧 本 直 樹	
研究普及	2 (1)	田 村 明 久	藤 野 直 明
編 集	2 (1)	中 森 眞 理 雄	加 藤 直 樹
会 計	1 (0)		枇 々 木 規 雄
渉 外	1 (0)		水 野 眞 治
広 報	1 (0)		矢 島 安 敏
支 部	1 (1)	石 井 博 昭	
無 任 所	3 (2)	大 鑄 史 男	能 勢 豊 一
監 事	2 (1)	山 田 善 靖	高 井 英 造

()内は平成 17 年度改選数